

- 2014 『原発ゼロ社会への道 —— 市民がつくる脱原子力政策大綱』
- 2017 『原発ゼロ社会への道 2017 —— 脱原子力政策の実現のために』
- 2021 原発ゼロ社会への道（3冊目） 正題・副題は未定

2021年版の構成（各章タイトルは暫定）

- 序章 福島原発事故10年の今、原発ゼロ社会を拓く
- 第1章 原発事故被害と人間の復興
- 第2章 福島第一原発事故の現状とこれから
- 第3章 核廃棄物政策の変革
- 第4章 原発の安全確保に関わる技術および規制の課題
- 第5章 原発ゼロ社会への行程
- 終章 原発ゼロ社会をどのようにするのか

2014年版

序章 なぜ原発ゼロ社会を目指すべきなのか

- 0-1 原子力発電の経営上の弱点
- 0-2 福島原発事故の被害
- 0-3 原子力発電の倫理的欠格
- 0-4 法律に基づく原発廃止
- 0-5 原子力発電に対する比較総合評価
- 0-6 3つのEの全面否定
- 0-7 社会的道理性の4つの原則
- 0-8 電力需給逼迫とコスト増加の問題
- 0-9 民意を反映させた政策改革
- 0-10 原発再稼働問題についての考え方
- 0-11 原発ゼロ社会の実現は難しくない

終章 「原子力複合体」主導の政策決定システムの欠陥と

民主的政策の実現への道

- 6-1 これまでの原子力政策の決定システムの欠陥 — 原子力複合体の支配力
- 6-2 政策決定と民意の乖離が、なぜ生まれるのか
- 6-3 民主的な政策決定を実現する条件は何か

2017年版

(序章は無し)

終章 原発ゼロ社会を創造するために

6.1 原発ゼロ社会はどこが好ましいのか

6.1.1 原発ゼロ社会とは何か

6.1.2 「3E+S」の観点からみた原子力発電

6.1.3 万人を不幸にする原子力発電

6.2 原発ゼロ社会をいかに構築するか

6.2.1 脱原発の公論形成へ向けて

6.2.2 原子力複合体の抵抗

6.2.3 原子力政策転換への道筋

2021年版

序章 福島原発事故10年の今、原発ゼロ社会を拓く

- 1 衰退する原子力発電
- 2 原子力発電の「無責任の構造」
 - 2.1 原子力発電の3つの倫理的欠格
 - 2.2 原子力複合体と「無責任の構造」
 - 2.3 なぜ原子力複合体の責任が問われるのか
 - 2.4 原子力政策の失敗
 - 2.5 「無責任の構造」とその5つの要素
- 3 原子力発電の「不可視の構造」
- 4 原発ゼロ社会を拓く

終章 原発ゼロ社会をどのようにつくるのか

- 1 原発ゼロ社会をつくる
 - 1.1 原発ゼロ社会とはなにか
 - 1.2 2011～21年の10年間はいかなるものであったか
 - 2 原発ゼロ社会移行期の課題と目標
 - 2.1 原発ゼロ社会に向けた市民の取り組みがなければどうなるか
 - 2.2 原発ゼロ社会移行期の目標
 - 2.3 無関心層と原発積極支持層の存在
 - 3 原発ゼロ社会への道
 - 3.1 原発ゼロ社会への2つの道
 - 3.2 原発ゼロ政府の樹立
 - 3.3 原発ゼロ政府なしでの取り組み
- おわりに ～ 原子力市民委員会の活動